

秋のよそおいから、いきなり防寒対策が必要な季節になりました。  
現在会員登録数 4,574 人さま。次号は 12 月 20 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

《6》富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

【1】お知らせ

●講演と対談「日本児童文学 戦後 80 年」

藤田のぼるさんと宮川健郎 IICLO 前理事長に、戦後、日本児童文学はどのような歴史をたどってきたのか、社会が大きく変化する中で、これからの児童文学はどうあるべきかについてお話しいたします。

日時：12 月 14 日（日） 13：00～16：00

場所：大阪府立中央図書館 2 階 多目的室

講師：藤田のぼるさん（児童文学評論家、作家、日本児童文学者協会理事長）

宮川健郎さん（IICLO 理事、武蔵野大学名誉教授、児童文学研究者）

定員：50 人 参加費：1000 円

※ 詳細・お申し込みは↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html#20251214](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#20251214)

大阪府立中央図書館では、12 月 28 日（日）まで、関連企画展示「日本児童文学戦後 80 年のあゆみ」を開催中。 ※解説執筆：宮川健郎 協力：IICLO

● 「ご寄付をお願いします」 当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701>

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*

『読書会を魔女といっしょにやってみたら』 濱野京子/作 米田絵理/絵  
あかね書房 2025 年 10 月 対象年齢：小学校高学年以上

\* 今回のゲストは当財団理事の宮川健郎さん（T）です。

あらすじ：9か月前に青葉野小学校に転校してきた6年生の稀桜（きお）は、野乃花（ののか）と仲良し。ある日、稀桜は、ふだんは行かない商店街の＜オープンスペース☆黒猫＞で大人たちが絵本の読書会をしているのを見かけて、中に入り、スペースのオーナーの愛沙（あいさ）さんという魔女のような女性に出会う。それから、稀桜は、野乃花、同級生の高瀬くん、小林くん、静奈と＜黒猫＞で読書会を行い、そのあと、一箱本棚の書店兼私設図書館を見学に行き、＜黒猫＞で同じようなスペースを作りたいと思うようになる。

T：読書好きの子どもたちが大人の読書会を見たことで、自主的に読書会を始めるといふ過程が自然に描かれ、おもしろいと思いました。

Y：5人の子どもたちが好きな本によって個性がわかるようになっていて、マンガ好きな子から絵本好きな子、同じ本を何度も読む子からいろいろな本を幅広く読む子までいることで、読書は自由で多様だというメッセージが伝わる点もよかったです。

T：初めての読書会のとき、最初5人は「おもしろかった」という感想しか言えませんが、愛沙さんの声がけで、それぞれが違うところに「おもしろさ」を感じていたことを発見します。等身大の子どもたちが描かれています。

Y：主人公の稀桜は何にもものおじしないタイプで、親友の野乃花は大人しい性格。読書会の運営を通してそれぞれがお互いのよさを見つけ、率直な言葉でコミュニケーションがとれるようになっていく過程が楽しかったです。また、5人の中に2人の男子がいますが、恋愛ではなく、さっぱりとした友情として描かれている点もこんなふうに男女が友だち関係になれたらなと思いながら読みました。

T：「本」が仲立ちの関係だからね。5人の読書会は、大人たちの支援もあって、最後には＜黒猫＞の場所を使って書店兼私設図書館を作ることになります。読者の子どもたちは自分たちもできそうと思えるでしょう。

また、支援をする個性的な大人の描かれ方も興味深かったです。その中の一人である魔女のような愛沙さんは、この場所で古本屋をしていた父親とけんかして海外へ行ったと書かれています。二人に何があったのかもう少し知りたいと思いながら読みました。

Y：私もその部分は気になりました。一方、大人たちが子どもを尊重している姿はうれしくなりました。

ところで、この作品には多くの子どもの本が出てきます。

T：ブックリストの役割も果たしていますね。エンデ『はてしない物語』（岩波書店）やカニグズバーグ『クローディアの秘密』（岩波書店）を稀桜のお母さんが読んだという部分や、静奈が古田足日『大きい1年生と小さな2年生』（偕成社）を何度も読んだという箇所があり、古典的作品の再評価という役割も果たしています。

Y：新しい本への目配りにも納得しました。

この作品は、商店街の過疎問題、図書館や書店が周りにないという問題など、現代の社会問題を子どもたちの視点で描き、物語を通して解決法の一つを提示しています。濱野さんらしいと思いました。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第123回「大礼服の例外的効果」

礼服を纏う校長

式典の日、やや緊張した面持ちの校長のまえに、新しい手袋をはめた旗手と

三人の級長がやってきます。旗手は富沢という学生。彼が学内に掲示した〈われらはわれらの信ぜざることをなさず〉という宣言文への対応に、ここ数週間、校長はとても頭を悩ませたのでした。今、眼前にてまじめに振る舞う富沢の真意を校長は測りかねますが、それでもみんなが真っ直ぐに並んで礼をすると、校長は少し頷きつつ、だまって部屋の隅にある校旗を指します。

校旗を手にした富沢は眼をあげて校長を見、校長は〈きまり悪そうにちよっとうつむいて眼をそらしながら〉ぶるぶるふるえる手で手袋をはめます。徳育会で〈ごまかしのない国体の意義を知りたい〉と詰問した富沢のことを思い出しつつ、〈卒業の証書も生活の保証も命さえも要らないと云っているこの若者の何と美しくしかも扱いにくいことよ〉と考えます。

一方、富沢は校長の大礼服の細やかな金彩が、明るい雪の反射でちらちら顫える美しさに魅了されていました。〈この人はこの正直さでここまで立身したのだ〉と思い、大礼服姿の校長に恍惚とします。物語はここで終わります。

式典の種類は明かされませんが、厳粛かつ滞りなく式を進めたい校長にとって、旗手・富沢は治安や秩序を乱しかねない危険分子です。予測できない存在を前に、不安と緊張で震える校長の臆病が描かれますが、しかし富沢の視線は「大礼服」という衣服の美と、校長にまで登り詰めてきた〈正直さ〉に注がれています。

衣服および着衣の役割・機能について、安東由則は社会の要求する〈「規範」などを〈私〉自身の身に付け、組み込む〉とともに、近代以降、我が国に積極的に取り入れられた制服は〈社会的な「規範」がより強く編み込まれ〉たもので、〈身体の規律・訓練を行い、「従順な身体」を作り上げるための大いなる手段〉であったと指摘しています（「近代学校の「身体規律」に関する社会学的考察」1996年）。

〈きゅうくつ〉に大礼服を着ている校長は、宣言〈われらの信ぜざることをなさず〉を掲げる学生に美を見出しながらも、彼らの逸脱を恐れる存在でもあります。この校長の両義性は富沢によって可視化され、大礼服の「例外的」効果として語られるわけですが、礼服を纏う校長に対する皮肉が込められているようにも感じます。（ペ吉）

（本文の引用は、『宮沢賢治コレクション2 注文の多い料理店』によりしました。）

\*\*\*\*\*  
《3》子どもの本の珠玉のことば 77  
\*\*\*\*\*

自転車を押して歩きながら、煉瓦の道を進み、広場の前に出たとたん、あたしははっとして息を呑んだ。

目に飛び込んできたのは、西日に照らされて、軽やかにスピーディに飛び跳ねる姿——知っている顔だった。跳ぶ影が鮮やかに入れ替わる。その顔も知っていた。心の中で叫んでいた。

うそお！　なんであの二人が一緒にいるんだよー！

（『フュージョン』 濱野京子/著 講談社 2008年2月 p.6）

対談で紹介した濱野京子の17年前の作品『フュージョン』からの引用です。

中学2年生の朋花（ともか）は、夏休み、高校教師の母親に対するいら立ちから行先も決めず、自転車をぶっ飛ばしています。朋花の兄は、成績優秀で「いい子」でしたが、両親とけんかをし、突然家出をして行方不明です。そんな時、朋花が家から離れた都立公園にやってきて目にした様子が引用になります。

優等生の美咲と、ヤンキーで茶髪の玲奈（れな）、そして玲奈のパシリという噂のある玖美（くみ）が、2本の縄を使って跳ぶ縄跳びである「ダブルダッチ」をしていたのです。朋花は、ダブルダッチに魅せられ、親にも唯一の友だちである彩乃（あやの）にも言わず、いっしょに練習をするようになります。

そして、美咲、玲奈、玖美が自分の思っていた人物とはまったく異なることを知っていき、ダブルダッチを通して少しずつ友情を築いていきます。その過程がとても丁寧に描かれていることがこの作品の魅力です。そして、美咲たちを理解し、受け入れようとすることによって、メールに写真だけ添付して送ってくる兄や両親についても考えるようになります。

もう一つの魅力は何とんでもなくダブルダッチの練習や発表の時の描写です。フュージョンは、音楽に合わせてダンスしながら縄を跳ぶダブルダッチの競技の一つだとのことで、読むだけで、縄の音や音楽が聞こえたり、縄を跳びながら体をリズムカルに動かしている様子が目に見えたりするような気がします。再読して、改めて「自分らしさ」や「友情」が濱野作品に共通していると思いました。（Y）

\*\*\*\*\*

#### 《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

あべのハルカス美術館で12月14日まで開催されている「手塚治虫 ブラック・ジャック展」に行ってきました。「ブラック・ジャック」は手塚治虫の無免許の天才外科医ブラック・ジャックが主人公の医療マンガで、「週刊少年チャンピオン」に1973年から連載され、全243作あります。今回の展示では500点以上の「ブラック・ジャック」の原稿に加え、連載当時の『週刊少年チャンピオン』や1970年代に発行された単行本、200以上のエピソードの直筆原稿がありました。

全体の構成は、個性豊かなキャラクターたちの裏話や謎を紹介した第1室「B・J（筆者注：ブラック・ジャックの略称）とキャストたち」、『ブラック・ジャック』を生み出すにいたる背景を語る第2室「B・J誕生秘話」、キャラクターや描かれるテーマなどのさまざまな視点で約140話の原稿を展示した第3室「B・J曼荼羅」、連載当時の社会背景と今なぜ「ブラック・ジャック」かを問う第4室「B・J蘇生」となっていて、見ごたえがありました。

「B・J誕生秘話」では、元手塚治虫氏のマネージャーで現・手塚プロダクション代表取締役社長の松谷孝征さん、「ブラック・ジャック」初代担当編集者の岡本三司さん、手塚の子どもたちのインタビュー動画があり、虫プロ倒産から復活というたいへんな時期に「ブラック・ジャック」が描かれたことがわかります。

「B・J曼荼羅」は、生の原稿とパネルで、多くのエピソードが紹介されていると同時に、タイトルには日本語の他に、英語、中国語、韓国語もついていて、手塚がいかに国際的なマンガ家であるかがわかります。

私は小学校の頃、叔父が買っていた『ブラック・ジャック』の単行本を叔父の家に行くごとに楽しみに読んでいました。本展示を観ると、その時の記憶が鮮やかによみがえってきました。特に、ピノコの誕生の場面の「畸形嚢腫」

や、戦時中に頭に受けた傷のせいで記憶喪失になっていたおじさんがブラック・ジャックの手術で記憶を取り戻して 30 万ガロンのガソリンの隠し場所を思い出して、新たに戦争を起こさないために爆発させる「とざされた記憶」などを改めて読んで、手塚治虫の天才的な才能を感じました。

そこには、第 4 室のメッセージにあるように、現代社会と通じるテーマが数多くあり、もう一度、『ブラック・ジャック』全話を再読したくなりました。  
(K)

あべのハルカス美術館 <https://www.aham.jp/>

\*\*\*\*\*

《 5 》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち 第 2 5 回

\*\*\*\*\*

第 5 章 古田足日先生

その 3 社会にひらく「散文」(下)

昨年(2024 年)は、古田足日・田畑精一の絵本『おいしいのぼうけん』(童心社 1974 年)の刊行 50 周年でした。私が古田足日先生(1927~2014 年)に出会ったのは、『おいしいのぼうけん』が刊行された、つぎの年。私は 19 歳でした。

この連載では、「思い出話」を語るだけではなく、私の出会った児童文学作家や評論家の仕事に対する考察や、さらには、そこから、現代児童文学史のとらえ直しも試みます。ご愛読ください。

今回で、第 5 章「古田足日先生」はおわります。来月は休載させていただき、2026 年 1 月配信の第 185 号からは第 6 章「鳥越信先生」です。

<本編はこちらから>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/watashinodeatta.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html)

\*\*\*\*\*

《 6 》 富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025

\*\*\*\*\*

第 2 回「富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025」を開催！  
2つのキーワードを使った童話作品を募集します。400 字詰め原稿用紙 5~10 枚で、未発表作品に限ります。

◎第 2 回のキーワード…「パン」「ワニ」

募集期間：11 月 20 日(水)~2026 年 2 月 2 日(日)

第 1 回同様、富安理事長がおもしろい作品 5~6 点を選び、2 月 20 日(金)のメールマガジンで公開。読者にいちばんおもしろいと思った作品に投票していただき、1 位と 2 位を決定します。

<詳細、応募方法はこちらをご覧ください>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/storycompe.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/storycompe.html)

■ ----- ■

【 3 】 全国のイベント紹介

■ ----- ■

● 講演会「時代で変わるマンガのカタチ マンガの歴史を実物資料で体験してみよう！」

講師：新美琢真(マンガ研究者、京都国際マンガミュージアム学芸室員)

日時：12 月 6 日(土) 14:00~16:00 定員：50 人 参加費：無料

場所：大阪府立中央図書館 多目的室

主催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■

#### 【４】プレゼント

■ ----- ■

今号のコラム《１》「この本読んだ？」で紹介しました『読書会を魔女といっしょにやってみたら』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1) お名前 (2) 郵便番号・住所 (3) 電話番号 (4) メールアドレス、よろしければ (5) このメルマガのご感想をお書きのうえ ご応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/uL2TpNhMEYWJpnQ9A>

締切は12月10日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — |

事務所の窓から見える公園の色づいた桜の葉が目を楽しませてくれます。むかしは、紅葉と言えは「モミジ」と思いこんでいましたが、最近、広葉樹は黄色やだいたい色など様々な色に変化するおもしろさに気づきました。常緑樹の緑とのコントラストを含め、身の周りの短い秋を楽しんでいます。(T A)

-----

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html)

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

-----

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

-----  
-----